

みずみずしいツヤとハリの「黒小町」

このコーナーでは、「自然農法の種子」を活用いただいている方々の栽培や種子に対する思い、使用している自然農法品種についてご紹介します。

京都府南丹市

林 広計さん
ひろかず

第12回となる今回は、京都府南丹市で「自然農法 林農園」を営む林広計さんをご紹介します。

京都府南丹市は、京都府のほぼ中央部に位置し、大半を丹波山地が占め、北部には由良川が、中・南部を淀川水系の桂川が流れ、その間にいくつかの山間盆地が形成され緑豊かな自然に恵まれた地域です。

みず菜、壬生菜、九条ねぎ、黒大豆、紫ずきんなどのブランド京野菜の産地であり、エコファーマーや有機農家も多く、付加価値の高い農産物に対するニーズがますます増えることが予想されます。

農園の紹介

園主の林さんは、幼少期に

アトピー性皮膚炎や喘息に苦しみ、当時入手困難であった有機農法の食材を食べて体質が改善されたことをきっかけに、自然農法の専門機関で約20年間、自然農法や有機農業の研究および農家の技術指導等に従事してきました。そして、2007年に夫婦二人で農園を立ち上げ、農地2ha・ハウス3棟の野菜を自然農法で育てています。

農園の特長

おいしい野菜を育てるには、よい土を育てることをモットーに園主のちよつとしたこだわりで、家畜ふん尿等の動物質のものは一切使わず、植物質だけの堆肥と有機質肥料を中心に土作りに励んでいます。

施用する資材は植物由来の自家製堆肥のみで、補足的に米ぬか、油かす（菜種、ゴマ）、貝殻粉といった有機質肥料を使用します。そうした有機物を有効に活用するため、乳酸菌・酵母を主体とした微生物資材も活用しています。

年間50品目以上の野菜を栽培し、おもに直送の宅配と、有機野菜を取り扱うスーパーへ出荷しています。

宅配を通してお客様と直接つながっていることから、お客様を遠くにいる親戚のように思い、美味しく、安心して食べてもらえる野菜を届けています。

タネを使った地域に根ざした活動

今回は、自然農法育成品種

のナス「黒小町」を紹介しましょう。林さんには「黒小町」の栽培適性を確認するため、育成時から協力いただき、今も「黒小町」を栽培しています。

長卵形のナスでは「黒小町」の他に市販品種も栽培していますが、「黒小町」は果実にやや丸みがあり、果皮のツヤや見栄えも良く、樹の勢いがあり収量も市販品種と変わらないとの評価です。草勢が弱くなくてもコンスタントに収穫できることから、宅配だと切らずに出荷できるということでした。

また、林農園ではV字仕立てをしており、「黒小町」は第1花の着生節位が高いため仕立てやすいということから、「黒小町」の特徴をさらに掘って近隣の仲間とともに

栽培者を増やしたいという考えです。

可能な限り在来種の自家採種もされており、新たな試みとして、わさび菜を出荷後に花まで咲かせて採種したタネを使ったマスタード作りや料理教室を開催しています。

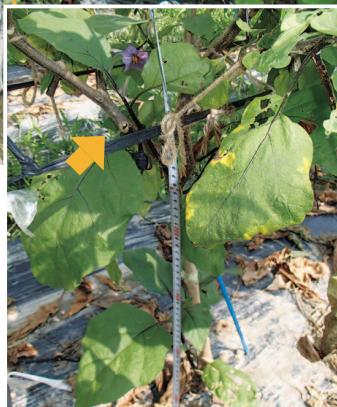
自然農法種子を使った仲間作りや料理教室といった人とのつながりを大切にする林農園の地域に根ざした活動から目が離れません。

（育種課 原田 晃伸）





市販品種（左 2 畝） と黒小町（右 2 畝）の比較。
黒小町の生育旺盛さが見える。



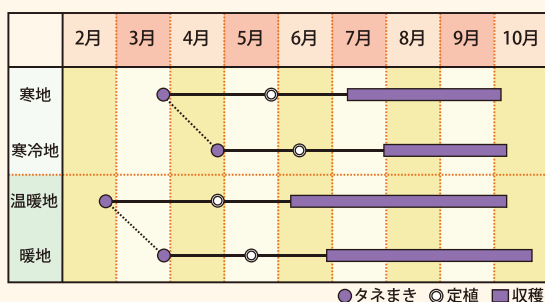
第 1 花の着花節位が約 50cm
と高く、収穫作業等がしやす
いなどのメリットもある。

今号の紹介品種 ナス品種「黒小町」



強勢で着果性に優れる露地栽培向き一代交配種です。果形は長卵形で果皮のツヤがよく、高温期の果皮の退色が「紫御前」に比べ少ないのが特徴です。草姿は半立性で「紫御前」に比べて節間がやや長く、第 1 花着生節位が高くなります。定植苗の大きさは、元肥を控えた場合は本葉 5 ～ 6 枚程、肥沃な場合は 1 番花開花直前の苗齢とすることに留意してください。1 番果は摘果して草勢を強め、2 番果から収穫を行います。追肥は草勢を見ながら収穫開始後 10 ～ 14 日おきに施用するようにします。

作型図



林農園の 栽培風景



林農園 H P <http://hayashi-nouen.petit.cc/>
ブログ <https://ameblo.jp/hayashinouen2007/>